

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果について

三原市教育委員会

この調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることをねらいとしています。今年度もすべての公立小学校6年生・中学校3年生を対象に平成31年4月18日（木）に実施され、三原市では小学校6年生659人、中学校3年生637人が調査を受けました。

三原市教育委員会では、三原市全体の結果概要を分析しました。各学校では、調査結果を詳細に分析し、指導内容や指導方法の改善計画を作成し、授業改善に努めています。

三原市教育委員会においても、各学校が実施する授業改善の進捗状況を把握しながら、『確かな学力』の向上に向けて取り組んでいきます。

1 調査の概要

(1) 調査期日 平成31年4月18日（木）

(2) 調査対象 公立小学校第6学年，中学校第3学年

(3) 調査内容

①児童生徒に対する調査

○教科学力の調査（※今年度より主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に構成）

【小学校】

・国語，算数

【中学校】

・国語，数学，英語

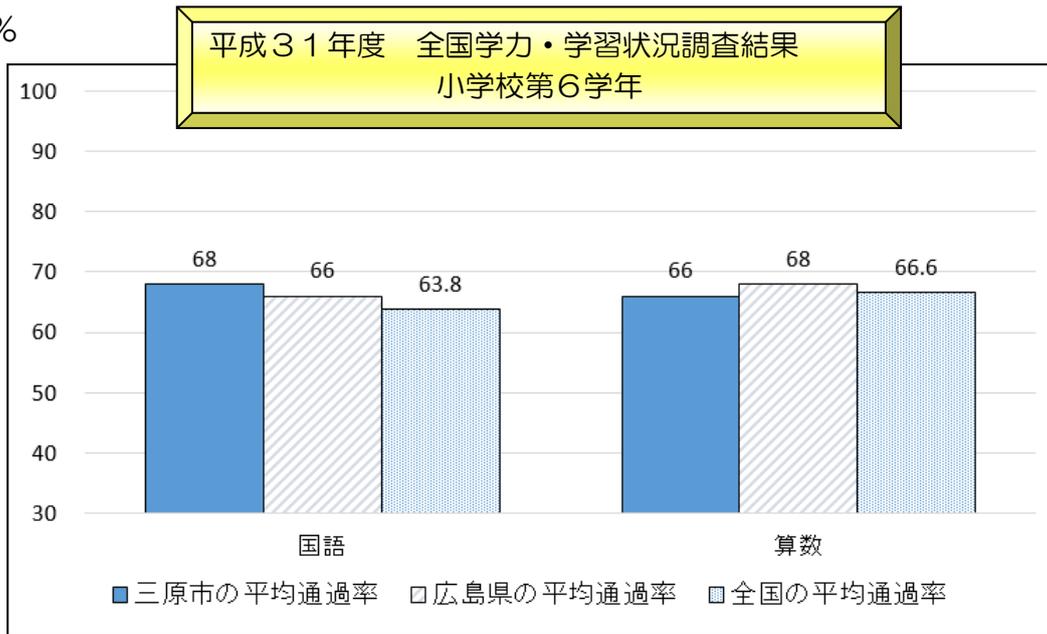
○学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する質問紙調査

②学校に対する調査

○指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

2 三原市の調査結果
 (1) 教科学力の調査

正答率%



【国語】

全ての領域において、平均正答率は県平均と同じかまたは上回っている。目的や意図に応じ、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。同音異義語に注意して、漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。

改善策として、目的や意図に応じ、考えの理由を明確にし、まとめて書く指導を行うことが重要である。調べて分かった事実から、自分の考えを支えるものとしてふさわしいものを取り上げ、自分の考えとの関係を十分にとらえて書くようにする。調べた目的と、調べた結果に基づく自分の考えとがずれることのないよう、自分の考えを確かめながら書くようにする。文章の構成に即して、内容を書き分けるようにする。

また、文脈に沿って正しい漢字を書くことができるようにする指導が重要である。新出漢字を繰り返し練習するだけでなく、自分が書いた文章を見直す学習などの中で、文脈に沿った正しい使い方を習得するようにする。特に高学年では、漢字の持つ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣をつけるようにすることが重要である。

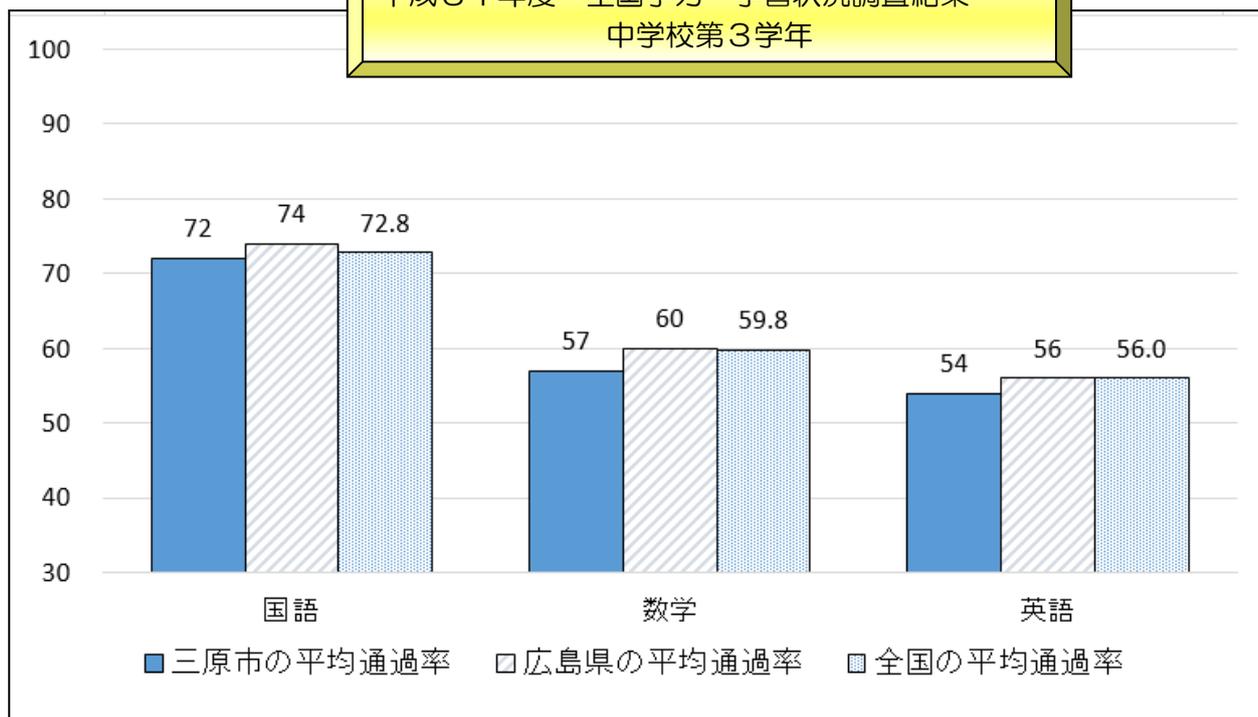
【算数】

全体では、全国平均値とほぼ同値で県平均より2%低かった。また、数と計算、量と測定、図形、数量関係の4領域において、県平均を下回る結果となっている。特に、量と測定、図形、数量関係において開きが見られる。さらに、正答率下位3問及び県差下位3問の中で4問が記述式の問題となっている。求め方や理由等を説明すること全般において課題がある。

改善策として、事実・方法・理由を記述する場面を授業で設定することが重要である。記述式の問題は、算数科の学習において、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり、論理的に考えたりして、他者に説明することが大切であること踏まえて、「事実」・「方法」・「理由」の3種類を問う内容で出題されている。授業者が「説明しましょう。」と発問することはよくあるが、その発問には「事実」・「方法」・「理由」の3つのいずれかを意図したものになっているか、日常的に意識する必要がある。

正答率%

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果
中学校第3学年



【国語】

全ての領域において、平均正答率が県平均よりも低い。また、話合いの話題や方向性を捉えること、分かりやすく伝わる表現について理解すること、話合いの流れを踏まえて自分の考えをもつことなど、話すこと・聞くことの領域において課題がある。

改善策として、言語活動を充実させ、効果的な話合いの進め方や伝わる表現について実感させる指導が必要である。司会の進め方や話合いの記録の仕方などを確認した上で、実際に記録を取りながら話合いを行うなどの指導事項を踏まえた言語活動を設定する。話合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、目指している到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話合いの仕方を見直しながら進めるように指導し、効果的な話合いや表現について生徒自身が実感できるように指導することが大切である。

【数学】

全体として県平均よりも3ポイント低く全ての領域において県平均を下回っている。正答率が低い問題は3問とも関数の問題である。県との差が大きい問題は全て領域が異なるが、観点別にみると②、④の2問は数学的な技能、⑦(1)は数量や図形などについての知識や理解の観点であり、基本的な知識・理解や、数学的な技能について課題がある。

改善策として生徒が事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する数学的な活動を遂行させる必要がある。また、日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り、得られた結果の意味を考察する活動を行う必要がある。

【英語】

すべての領域を通して、県、全国ともに、平均値を下回った。記述式の正答率は、県、全国と比較して高い。正答率下位3問の領域は、低い順に、書くこと、聞くこと、読むことである。県差が-6.6 あった問題は、会話の文脈から Oh! (like) baseball? の完成文を作る問題である。Do you like と補うべきところに誤りがある。

改善策として、定期考査やドリル問題で、類似の問い方を意識して取り入れるなどが必要である。单元ごとに、目的、場面、状況の設定をし、生徒にたくさん英語を使わせる時間を作る。その中では、伝えたい内容を重視し、アウトプットさせることが重要である。